

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
1【生きる】 2【かかわる】 3【そなえる】	④【夢や希望の大切さ】夢や希望を持つことは、生きる価値を見いだすことであり、つらく厳しい状況乗り越えられることにつながることを実感する。 ⑩【県内外や海外の人々とのつながり】苦しみや悲しみに包まれている人々を支援している人に感謝し共に協力することの大切さを実感する。 ⑫【自分と地域社会】自然災害が、暮らしの変化や地域経済に与える影響について理解し、自分と地域社会との関係について考える。 ⑭【復旧・復興へのあゆみ】被害を受けた交通網や産業、住宅やまちの復旧・復興の状況を調べ、安全で生き生きとしたまちづくりにかかわる。 ⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。	総合 (1日間)

【題材】復興教育パネルディスカッション

【対象】小川中学校全学年 55名参加 +教職員14名、学校運営協議会委員2名

【実践への経緯】

H25年度は、各学年からの発表をまとめた場としたが、H26年度は、お互いの被災地での学習、人々との交流、復興に向けての歩みなどを振り返って、刺激を受けたこと、学んだことを基に、自分なりの新たな問いを持てるようにするために、パネルディスカッションを開催することとした。

【ねらい】○被災地の復興状況を把握し、復興に関わる人々から生き方や考え方を学ぶ。

○各自、各学年が学んだ成果や「問い」への答えを発表により共有し、新たな課題を発見する

【日程】

<11月17日(月)> 時間：5・6校時
場所：オープンスペース

13:35 開会・講師紹介

13:40～基調講演

演題『生きる』

講師 森本 晋也 指導主事

(岩手県教育会 復興教育担当)



14:10～被災地学習発表(各学年10分)

1年 岩泉町小本地区被災地学習報告

2年 田老地区・陸前高田市被災地学習報告

3年 山田町被災地学習報告

※詳細は、別ページ参照



14:40～パネルディスカッション

・パネラー(生徒) 1年代表 畠山祥大

2年代表 山岸彩乃

3年代表 川村亜美

(教師) 校長 森本指導主事

(司会) 中里教諭



15:20 閉会

【主な実践の詳細】※日程右の（ ）に対応

（１）基調講演

岩手県教育委員会指導主事で、復興教育担当の森本晋也先生より『生きる』という演題で、基調講演をしていただいた。震災後、地域のために奮闘している釜石の人々の紹介では、両親、祖父母、姉の全ての家族を失いながらも仲間たちと頑張っている小川さんが紹介され、衝撃を受けた。最後に、「家族や友達、被災地の人たちに思いを馳せると共に、自分はどう生きていくか」を考えて欲しい、「今行っている被災地支援を続けて欲しい」というメッセージで、講演が結ばれた。



（２）パネルディスカッション

パネルディスカッションは、初めての試みであった。各学年の被災地学習の報告で、内容を確認した後、一番印象に残ったことをそれぞれが発表した。昨年度からの復興教育の取り組みの経緯について、校長先生から一通りの説明があった後、司会から各パネラーに質問が投げかけられた。被災地学習をして自分がどう変わったかの問いに対して、「TVの映像を見て、どれだけ多くの人が亡くなったのだろうと人ごとでなく感じるようになった。」（3年川村）「相手の気持ちを考えて話すようになった。」（2年山岸）、「食べ物がある有り難みを感じながら食べるようになった。」（1年畠山）という回答がされた。



森本先生から、学んだこと、抱いた「問い」の形を次の学年にバトンとして渡して行けば、活動が繋がっていくとアドバイスをいただき、次への方向性が示され、パネルディスカッションを終えることができた。



<自分の問いの例>

- ・「震災で亡くなった方々のことを自分はどう思って生きればよいのか」
- ・「できることは小さくてもいいから人の気持ちを考えることができるようになりたい」
- ・「自分が生きていく中での使命は何だろう」
- ・「人は死んだら、どこに行くのか？」

【まとめ】被災地学習から少し時間が経っており、その後取り組みが中断していたこともあり、自分の問いを見つけるに至る流れを作るのが難しかった。活動を振り返り、質問への回答を聞く中で、少しずつ自分の問いを見つけるための材料が提供され、問いの芽が芽生えていることが確認できた。